

三浦校長先生のもと中高新体制がスタート

教職に就き37年、私は本校が公立でいちばん良い学校だと思っています。子どもたちが「夢を語れる学校、かなえられる学校」であること、そして子どもたちを支える先生自身が生き生きと日々の指導に取り組めること。校長代理、副校長先生と力を合わせ、中高一貫教育校の理想形を追求していきます。本校の生徒、先生をぜひ見に来てください。
横浜市立南高等学校 横浜市立南高等学校附属中学校 校長 三浦 昌彦 先生

いろいろなことに挑戦してみたい、自分を伸ばしたいという意欲を持っている子にとって、本校はその期待に十分応えられる学校です。主体的な学びがさまざまな用意された本校で、ぜひ力を伸ばしてください。

横浜市立南高等学校附属中学校 校長代理 白田 淳子 先生

本校の生徒は、学習はもちろん、お互いを知り、話し合うことを楽しみ、先生方もその意欲に応えようと力を合わせて取り組んでいます。6年間の学びの中で考える力が育っていくことを実感できる学校であると思います。

横浜市立南高等学校 副校長 二上 直子 先生

時間が足りなくても学校行事に燃える「変わらぬ気概」、妥協しない進路実現を目指す「ひたむきな努力」。附属中の頃から先輩たちの背中を追いかけて、高入生(高校からの入学生)と刺激し合い、ともに駆け抜ける6年間。そんな南高生の「活力」を、ずっと信じています。

横浜市立南高等学校 副校長 松田 哲治 先生

本校の先生方は子どもたちのことを思い、力を伸ばしてくれる先生方です。その先生と生徒が一緒に力を合わせ、学校を作っています。主体性、協働性が育ち、希望する道に進めるよう、これからも生徒と先生をバックアップしていきます。

横浜市立南高等学校附属中学校 副校長 阿部 康彦 先生



開校8年目、新しいステージに。

校長1人体制で中高一貫教育校の理想形を追求。

2019年
6月10日
取材

2012年開校の南高校附属中学校。昨年、県内公立校トップクラスの大学合格実績を上げた1期生でしたが、2期生はそれをさらに上回る東大7名合格、国公立65名合格の実績を上げました。中・高校長1人体制となり新たなステージに入った南高校・附属中学を、6月10日に訪問しました。

根拠ある自信、妥協しない進路実現

「今年も工学系を志す生徒が最も多かったですね」と南高校附属中学開設にも深く関わった三浦校長先生。今年度から高校の校長に加え、附属中学校の校長に就かれま

した。「1期生の頑張りを見続けてきた2期生は『私たちも頑張れば受かる』の自信を持ち最後まであきらめませんでした。合格判定模試でE判定だった生徒が東大合格、千葉大後期日程で薬学部合格など、エピソードはたくさんあります。1期生、2期生の背中を見続けてきた3期生も、およそ8割が国立大進学を目指し頑張っています」。

英語5ラウンド制は「漆器づくり」

2年連続で公立校トップクラスの大学合格実績を上げた背景はどこにあるのでしょうか。先生方の努力、保護者の協力、1期生・同窓会の支援などを挙げられた後、三浦校長先生は「1期生で感じたことが2期生の実績で確信できました。その一つが附属中学校の英語5ラウンド制で培った英語力です」。

学時代のEGGや高校時代のTRY&ACTでやってきたことがアドバンテージになりました」と話してくれました。EGG、そしてTRY&ACTでの探究活動は、新大学入試でも十分通用するものだと考えます。

附属中の魅力の一つ、総合的な学習「EGG」そしてスパーグローバルハイスクール(SGH)指定校※でもある高校の「TRY&ACT」。その学びが新大学入試でもアドバンテージとなるのは間違いないさそうです。

(※国からの指定終了後は横浜版SGH指定校予定)

開校8年目、新しいステージに

「異動してきて感じたのは、附属中にはその子の持っている力を引き出しバックアップする体制が整っていることです」と、白田先生。横浜サイエンスフロンティア高校の副校長を務められ、4月に附属中学校長代理として赴任されました。「サイエンスにはサイエ

ン、南には南の良さがあります。その『いいとこどり』で、中高6年間をさらに魅力あるものにしていきたいですね」

三浦校長先生のもと、附属中学校は校長代理白田先生、副校長阿部先生が中心となり、高校は副校長松田先生と、横浜商業から4月に赴任された副校長二上先生が中心となって運営されます。三浦校長先生は抱負を次のように話されました。

「中高一貫教育で組織改革に取り組んでいます。分かりやすい例として、入学案内は予算の関係もあり中学・高校別々ですが、中高一貫教育校であれば1冊にまとまっているほうが良いでしょう。検討事項は多岐にわたりますが、中高一貫教育校の理想形を先生方と一緒に追求していきます」

最後に先生方のメッセージを紹介し、本稿の結びとします。

文章を読み通す力、自分の意見をまとめて記述する力

「ある数学科の教員が『彼らは日本語が分かっていない』と。文章から何を問われているかをしっかりと読み取れる力を持って入学してきているのですね。南高校附属中学受験に向けてたくさんの長文を読み、文章を理解する力を高め、意見文を書く練習を積んできたことが、6年間の学びと大学受験の土台になっていると思います」と三浦校長先生。

合格を目指して積み重ねる適性検査対策学習が、未来を開く確かな学力の土台となっている。三浦校長先生の言葉は受験生へのエールでもあります。

新大学入試でもアドバンテージ

高校2年生の4期生が、新大学入試元年世代。新大学入試ではいわゆる「学びのポートフォリオ」も重視されます。三浦校長先生はこんなエピソードを紹介してくれました。

「東大の推薦入試に合格した生徒が後輩に向けて『私は勉強が苦手だったけれど、中

2019年度市立南高校大学合格実績(抜粋)

○…高入生、()…既卒生 内数

国公立大73^③(5)名

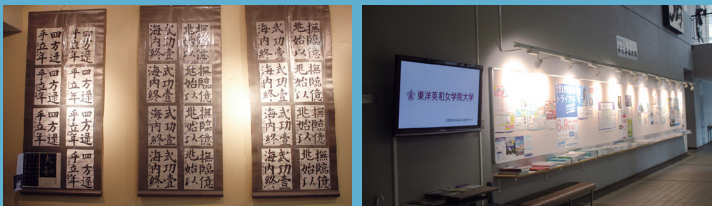
北海道	2 ^名	東京	8 ⁽¹⁾ 名	大阪	2 ^名
弘前	2 ^名	東京学芸	2 ^名	国際教養	2 ^名
筑波	2 ⁽¹⁾ 名	東京工業	2 ^名	首都大学東京	4 ⁽¹⁾ 名
千葉	3 ^名	東京海洋	2 ^名	横浜市立	13 ⁽²⁾ 名
電気通信	3 ^名	横浜国立	12 ⁽¹⁾ 名	県立保健福祉	2 ^名

さらに 帯広畜産 東北 茨城 東京医科歯科 東京外国語 東京農工 一橋 静岡 名古屋工業 京都 九州 長崎

私立大648^③(100)名

青山学院	20 ^{①(1)} 名	上智	9 ⁽¹⁾ 名	明治	74 ⁽¹¹⁾ 名
学習院	9 ^{①(1)} 名	中央	33 ⁽⁶⁾ 名	立教	39 ⁽⁷⁾ 名
慶應義塾	21 ⁽³⁾ 名	東京理科	38 ⁽⁶⁾ 名	早稲田	50 ⁽⁶⁾ 名
芝浦工業	21 ⁽³⁾ 名	法政	43 ⁽⁴⁾ 名		

校舎点描



芸術にも力を入れているのが南高校・附属中学校の特色の一つ。在学中にデザイン会社を起業した南高生も。



保護者の方にウレシイ学食。附属中開校から変わらず、中学生一番人気は「からあげ丼」だそうです。



中学生も目にする校舎入口には「夢をかなえる」サインのもと、進路情報コーナーを常設。



校舎入口のメッセージボードには生徒会からのメッセージ。中学・高校それぞれの生徒会役員が書いています。

授業点描



目前に迫った合唱コンクールに向けて練習に動む中学1年生。2カ月余りでここまで上達するのは指導者の力ですね。6学年が参加する合唱コンクールは毎年「みなとみらいホール」で開催される一大イベントです。



国語授業で使用する『奥の細道』単行本。日本の中学生は教科書で必ず勉強しますが、全編目を通す機会は、なかなかありません。



中3生が「EGG」体験で行くカナダ研修旅行。中1から毎年行う英語集中研修、中2イングリッシュキャンプ等、非日常世界で英語を使う機会が多いのも特徴。



上は中3数学のチームティーチング。附属中では英・数・国授業が毎日組まれ、数・理・英授業は少人数またはチームティーチングで行われます。下は高1数学授業。高校の英・数は2クラス3展開の少人数制ですが、数学はレベル別クラスを自分の希望で選択できるよう配慮されています。



「授業が楽しい」、「教材研究が増えている」と三浦校長先生。高校教員が年間通じて中学生授業を、中学校教員が高校生授業を担当する中高一貫校ならではの取り組みも始まりました。